The Site of Tawaramoto Vol.5
田原本の遺跡 5

HA NI WA

田原本の埴輪

田原本町教育委員会

古墳に立て飾られた様々な埴輪

3世紀から6世紀の古墳時代、日本列島では前方後円墳や円墳、方墳など高く土を盛り上げたお墓（古墳）が造られました。このような古墳には、円筒埴輪が立て並べられ、死者を送る儀礼としての家形埴輪や人物埴輪、動物形埴輪などが墳頂や造り出しなどの区画に置かれました。

奈良盆地の中央部に位置するこの田原本町にも、かつては数多くの古墳が存在していましたが、大半は忘れられ農耕地となりました。発掘調査では、墳丘が削られ周濠のみになった古墳を水田の下でよく発見します。この周濠からは、古墳築造後時間を経ずに墳丘から転落した埴輪が良好な状態で出土します。

1. 黒田大塚古墳（写真上が北）

6世紀初頭の全長86mの前方後円墳で、盆地中央部では墳丘が残る数少ない古墳です。円筒埴輪（65・66）や蓋形埴輪（46）、笠形（48）や鳥形木製品が出土しています。

2. 小規模な方墳（羽子田6・8号墳／羽子田遺跡第6次調査）

一辺約13m前後の5世紀後半と6世紀の方墳が重複しています。墳丘は削平され、周濠のみ残っています。この古墳の一帯では、同様の削平を受けた古墳が多数見つかっており、羽子田古墳群を形成しています。この古墳群では、円筒棺（53・54）が出土しています。

3. 古墳に立て並べられた円筒埴輪
（河合町ナガレ山古墳）

河合町・広陵町・大和高田市にまたがる馬見古墳群に属する全長105mの前方後円墳です。古墳の東半分を築造当時の姿に復元整備しています。

円筒埴輪・朝顔形埴輪

円筒埴輪は、岡山地方の弥生時代に作られた特殊器台から発達したもので、数条の凸帯をもちますが、文様は施されなくなります。当初は墳頂に置かれていましたが、墳丘を巡るように立て並べられるようになりました。この円筒埴輪には、上部に壺を載せた形の「朝顔形埴輪」や円筒の縦方向に板状の粘土を貼り付けた「鰭付円筒埴輪」があります。円筒埴輪は、最も一般的で古墳時代前期から後期まで多量に作られました。

4. 4世紀の円筒埴輪
（羽子田3号墳／羽子田遺跡第3次調査）

外面に黒い斑点（黒斑）が有り、野焼きで作られた4世紀後半の埴輪です。凸帯（タガ）は、細くて高く突出しています。また、透かし孔は、長方形にあけられています。

5. 5世紀の円筒埴輪
（羽子田6号墳／羽子田遺跡第6次調査）

外面に黒斑が無く、窖窯で焼かれた5世紀後半の円筒埴輪です。上部がやや開く円筒形で、円形の透かし孔があけられています。外面には縦方向のハケ調整後、連続する横方向のハケ調整が施され、また、底部の外側に縄の圧台による凹みがあるのが特徴です。

7. 朝顔形埴輪
（羽子田6号墳／羽子田遺跡第6次調査）

6. 6世紀の円筒埴輪
（笹鉢山2号墳／笹鉢山古墳群第1次調査）

6世紀前半の円筒埴輪で、上部が大きく開き小型の粗雑な作りになっています。凸帯（タガ）の突出は低く、断面の形態は扁平な三角形を呈しています。

首長の居館を示す家形埴輪

家形埴輪は、首長館や祭殿、高床倉庫など生前の豪族屋敷の建物を表したものと考えられています。これらの建物は、屋根の造り方が寄棟や入母屋、切妻造りがあり、鰹木や鰭状の飾りをもつもの、網代表現の線刻があるものなど様々な建物があります。

8. 入母屋造りの建物
（保津岩田古墳／保津・宮古遺跡第14次調査）

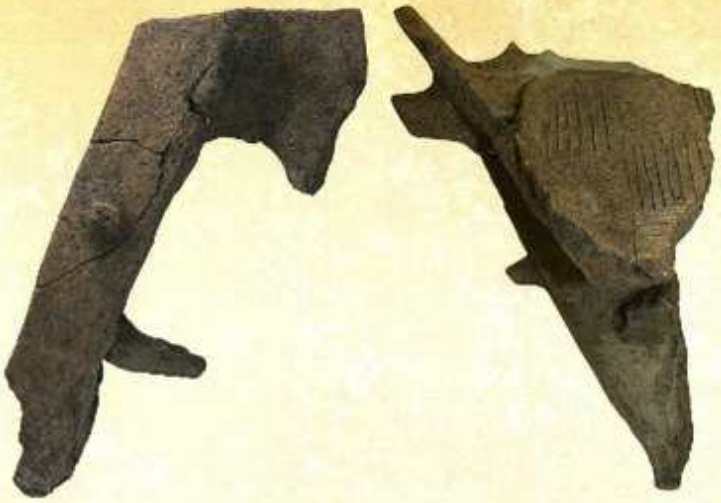
一辺10m以上の方墳と推定される周濠から出土したものです。入母屋の屋根は、上半は切妻形、下半が寄棟形で構成されています。大棟を覆う表現はありませんが、それを固定する押縁が扁平な帯状の凸帯で表現されています。正面には、入口と窓があけられています。壁には柱と思われる線刻があり、桁行2間、梁間2間の建物と推定できます。

9. 切妻造りの建物
（保津岩田古墳／保津・宮古遺跡第14次調査）

この建物は、入母屋造り建物（8）と一緒に出土しました。吹き抜けの開放的な高床建物です。妻側（建物短辺・写真奥側）に入口があり、敷居にあたる部分には半円形の刳りこみがあります。

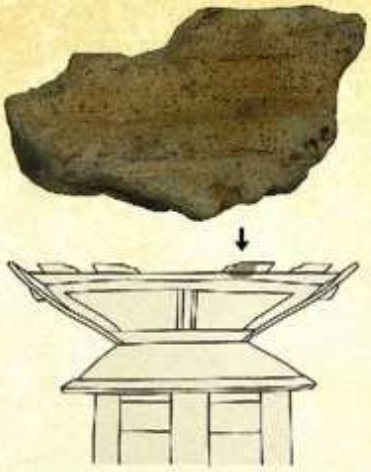
10. 切妻造りの建物（唐古・鍵遺跡第76次調査）

11. 切妻造りの建物（羽子田遺跡第6次調査）



12. 建物の屋根破片
（笹鉾山1号墳／笹鉾山古墳群第4次調査）

入母屋あるいは切妻造り建物の屋根部分の破片です。破風板には大きく突出した棟木とその下に小さく突出した桁木が表現されています。また、棟上には円筒状の鰹木が剥落した痕跡があります。棟覆いの部分は、格子文の中に横線・縦線を描き、網代を表現しています。



13. 建物の屋根破片
（唐古・鍵遺跡第40次調査）

棟上に作られた鰹状飾りの破片です。

14. 建物の屋根破片
（羽子田1号墳／羽子田遺跡第11次調査）

入母屋の屋根の破片で、下半の寄棟部分にあたります。屋根は縦長を呈し、小孔があけられています。

15. 建物の屋根破片
（小阪里中1号墳／小阪里中遺跡第1次調査）

切妻造り建物の棟覆い部分の破片で、線刻によって棟帯と押縁を表現しています。

16. 建物の屋根破片（小阪里中1号墳／小阪里中遺跡第1次調査）

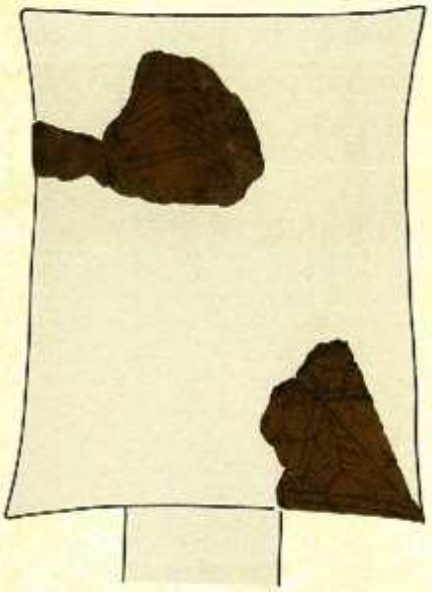
盾・盾持ち人物埴輪

革製や木製の盾を模した盾形埴輪は、器財形埴輪として一番早く出現し、後期まで作られました。前期の盾形埴輪は、埋葬施設のある墳頂部に配置されており、聖域を護るために立てられました。一方、盾持ち人物埴輪は、大きな盾の上に人物の頭部のみを表したもので後期に出現します。盾持ち人の頭や顔の表現は、様々で個性的です。髷を結ったり、帽子や冠をつけたり、大きな耳や顎鬚、顔に入れ墨を入れるなど厳しい、怖い、そして笑いの形相をしています。

これら盾持ち人物埴輪は、古墳の外側に立てられることが多く、古墳に侵入するものを防ぐ役割があったのでしょう。羽子田1号墳では、7個体の盾持ち人物がまとまって出土しており、注目されます。

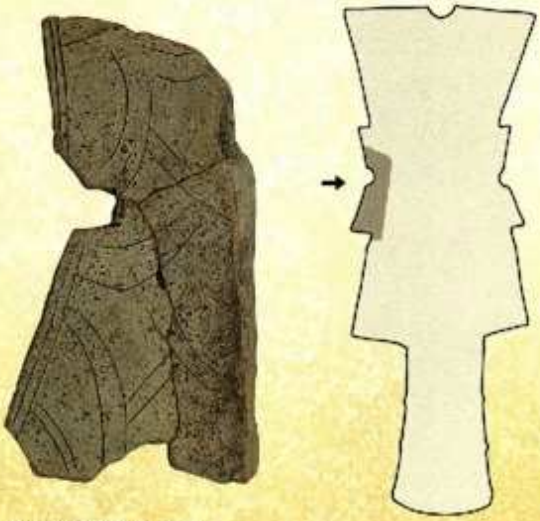
17. 盾形埴輪
（保津岩田古墳／保津・宮古遺跡第14次調査）

保津岩田古墳の盾形埴輪は、肩の縁辺に鋸歯文、中央に水字貝を表現したと考えられる絵画が描かれています。和泉黄金塚古墳の革盾には、水字貝を起源とする巴形銅器をつけたものが出土しており、魔除けの意味があったようです。8・9の建物埴輪と一緒に出土しました。



18. 盾形埴輪（小阪里中遺跡第4次調査）

19. 盾形埴輪（唐古・鍵10号墳／唐古・鍵遺跡第84次調査）



20. 石見型盾形埴輪
（小阪里中1号墳／小阪里中遺跡第1次調査）

三宅町石見遺跡（古墳）から出土した埴輪を典型としたため、この名称が付けられました。この独特の形状は、琴柱形石製品（玉杖の頭飾り）に系譜を求める説もあります。

21. 盾持ち人物埴輪
（羽子田1号墳／1897年出土）

円筒部の前面に長方形の板状の盾を貼り付けたもので、頭部はソケット状に差し込み式になっています。盾は、縁辺に鋸歯文を描いています。頭部は大きく欠けていますが、22の人物のように上が開いた被り物を付けていたと考えられます。耳は長方形の粘土板を貼り付け、大きな耳を表現していたようです。

22. 盾持ち人物埴輪
（羽子田1号墳／羽子田遺跡第11次調査）

盾持ち人物埴輪の頭部で、別作りの盾形埴輪に挿入されるものです。頭頂部は上部があいた山形の被り物をつけ、顔には入れ墨と思われる矢羽状の線刻、そして顎には髭が作り出されています。耳は、21の人物のように粘土板を貼りつけ大きな耳を表現していたようですが、欠損しています。

23. 盾持ち人物埴輪
（羽子田1号墳／羽子田遺跡第11次調査）

盾持ち人埴輪の頭髪の破片です。粘土板を整形して顔部分に貼りつけていたのでしょう。盾と人物が一体で作られた埴輪です。

24. 盾持ち人物埴輪
（羽子田1号墳／1897年出土）

この盾持ち人物埴輪も人物と盾が一体で作られた埴輪です。顔の部分には、頭髪を貼り付けた痕跡と顔の線刻、口の一部が残っています。盾部の文様はなくなっています。

25. 盾持ち人物?埴輪
（羽子田1号墳／1897年出土）

盾部のみの破片で、盾持ち人かどうか判断できませんが、他の盾持ち人物埴輪とまとまって出土していることから、盾持ち人物の可能性があります。

26. 盾持ち人物?埴輪
（羽子田1号墳／1897年出土）

盾部のみの破片で、盾持ち人かどうか判断できません。盾部には矢じり?状の表現の線刻がみられます。

27. 盾持ち人物埴輪
（羽子田1号墳／1897年出土）

この盾持ち人物埴輪も頭部と盾が一体で作られた埴輪ですが、首までしか残っていません。盾部の文様もありません。

馬曳き人物と馬形埴輪

5世紀になって、日本列島に馬がもたらされるとともに埴輪としても作られ始めました。馬形埴輪の多くは、鞍や鐙、轡などの馬具を装着した飾り馬です。このような飾り馬は、首長権威の象徴でした。また、飾り馬とともに片手を挙げた人物埴輪がセットで出土することがあり、馬の手綱を曳く人物と考えられています。笹鉾山2号墳では、馬曳き人物と飾り馬のセットが2組分良好な状態で出土しています。

28-a

28-b

28—a・b. 馬曳き1号人物埴輪
（笹鉾山2号墳／笹鉾山古墳群第1次調査）

円筒の基底部に、左手を挙げ右手を下げるポーズの人物が作られています。挙げた左手には手綱を想起させる紐状のもの（粘土で製作か）を握っていたようですが、剥離しています。面長の顔は、額から下の顔面を一段くぼませて立体感を出させています。鼻孔まで表現した鼻は高く、その周囲には翼形の線刻と目尻から頬、顎にかけて髭風の線刻表現がみられ、入墨を表していると考えられます。頭部は、ハケ目によって髪の毛を表現し、髪は左右と後ろに束ねた角髪にしています。

29-a

29-b

29—a・b. 馬曳き2号人物埴輪
（笹鉾山2号墳／笹鉾山古墳群第1次調査）

1号馬曳き人物と同様に左手（指先は復元）を挙げるポーズです。顔面は失われていますが、頭部はやや角張った作りで、調頂部は塞がれずに大きくあいています。目や角髪、髪の毛も1号と同様の表現ですが、残っている顔面には入墨等の線刻は見当たりません。注目されるのは、背中側の腰の凸帯下側に粘土紐をL字形に成形した鎌が貼り付けられていることで、この人物が馬曳きである根拠にもなります。

30. 1号馬
（笹鉢山2号墳／笹鉢山古墳群第1次調査）

胴部右後側が大きく欠損するものの、全体の7割以上が残っています。鼻先がやや角張った顔に特徴がありますが、尖った耳、たてがみ、ふくらみのある胸、鐙のある脚、そして、鞍など馬具を装備した写実的な馬です。馬具には、f字形の鏡板を付けた轡、面繋は革帯と思われる粘土を貼り付け、その交点には花形の辻金具、胸繋や鞍の敷物、障泥は線刻で表現、手綱と鐙、尻繋は粘土紐貼り付けで尻には7個の鈴がつく杏葉が表現されています。

32. 馬形埴輪
（唐古・鍵4号墳／唐古・鍵遺跡第72次調査）

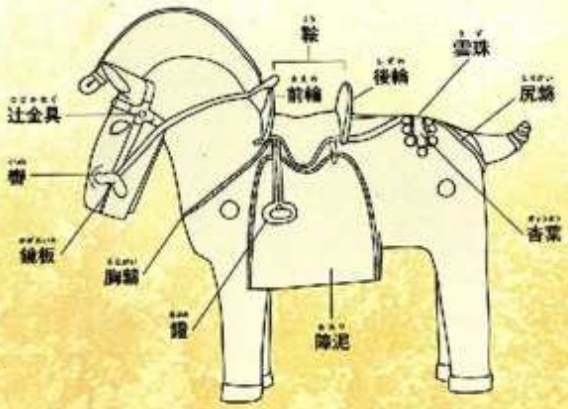
臀部のみの破片で、f字形の鏡板を付けた轡と、面繋は革帯と思われる粘土を貼り付け、その交点には花形の辻金具が線刻されています。

33. 馬形埴輪（小阪里中1号墳／小阪里中遺跡第1次調査）

胴部の背中から腹部の片側のみの破片で、鞍などの馬具が表現されています。馬具には、鞍の敷物、障泥は粘土板を一枚貼付け浮き立たせ、周縁を半裁の工具で刺突し、敷物のかがりを表現しています。鐙は木の葉状の線刻で、尻繋は3巻の粘土紐貼り付けで、右後脚上部には菱形の杏葉表現があります。

31－a･b. 2号馬
（笹鉢山2号墳／笹鉢山古墳群第1次調査）

口と鼻の先端が欠けている以外は、ほぼ全容のわかる良好な飾り馬です。形態や馬具装備は1号馬とほとんど同じですが、鞍は鐙を含めて全て線刻で表現されています。また、胸繋の表現はなく、尻繋の粘土紐の表現、杏葉も鈴を使用しない点は1号馬と異なり、簡略化されています



人物埴輪

人物埴輪は、首長や巫女のほか、貴人や武人などがあり、首長の権威を引き継ぐ儀式や葬祭に伴う殯儀礼などの場面を再現したものと考えられています。

田原本の古墳では、人物埴輪の中では特に神事に奉仕する女性の巫女形埴輪が多く見つかっています。

34. 巫女形埴輪
（唐古・鍵遺跡?小阪里中遺跡?／末永雅雄博士採集）

末永雅雄博士が、唐古・鍵遺跡で採集されたとする埴輪ですが、考古学雑誌の島本一氏の報文に「小阪出土巫女形埴輪」として、この埴輪とよく似た埴輪のスケッチがあり、前述の口述が間違いの可能性があります。

須恵質に焼かれたもので、一部変色しているところがあることから彩色されていた可能性があります。表情は無表情ですが、女性らしい優しさが漂っています。頭部の髪型は、板状の粘土板を折り曲げ貼付けて、島田髷風に表現しています。

35-a

35-b

35—a・b. 巫女形埴輪
（唐古・鍵4号墳／唐古・鍵遺跡第72次調査）

頭部（35-a）と左胸部（35-b）のみの破片です。頭頂部の剥離から髪があったことがわかります。また、耳の表現や表情から女性（巫女）と考えられます。胸部の破片は、意須比と呼ばれる祭衣が表現されています。

36. 巫女形埴輪
（小阪里中1号墳／小阪里中遺跡第1次調査）

胸部のみの破片です。右肩から左脇の下にかけた意須比と呼ばれる祭衣が表現されています。また、意須比の前で結び垂らした紐が平たい粘土紐を貼りつけて表現しています。

37. 人物埴輪
（羽子田9号墳／羽子田遺跡第6次調査）

38. 巫女形埴輪
（唐古・鍵10号墳／唐古・鍵遺跡第84次調査）

左後頭部と頸から胸にかけての破片です。頭部の破片は耳、胸の破片には粘土粒で表現された首飾りが貼り付けられています。

動物形埴輪

動物埴輪には、馬・牛・犬・鶏の家畜や猪・鹿・水鳥などが作られましたが、葬送のための動物たちで種類は多くありません。「とき」を告げ再生を願うための鶏や霊魂を運ぶ水鳥、猪や鹿は狩猟儀礼などの性格が考えられます。

39. 牛形埴輪
（羽子田1号墳／1897年出土）

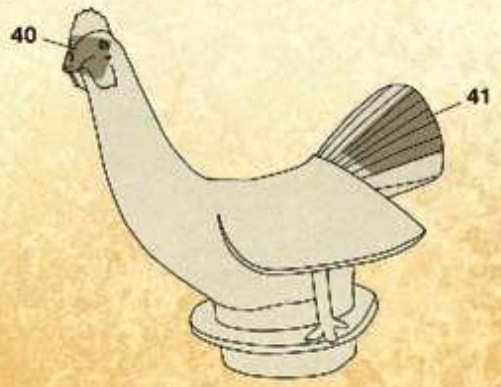
羽子田1号墳の牛形埴輪は、病害鑑察に伴い不時発見されたもので、この他に盾持ち人物埴輪（21・24～27）や蓋形埴輪（45）などが見つかっています。長らく、出土地点が特定できていませんでしたが、1998年の発掘調査によって前方後円墳の周溝から出土した可能性が高くなりました。

この牛形埴輪は、胴部に比較して頭部が小さく作られ、欠損していますが頭部には耳と角があったと思われます。首は短く、背中や胸はふくよかな肉付きをもっていることから、牛として考えて間違いないでしょう。

牛形埴輪は、全国で約7例しか知られていない数少ない埴輪です。なかでも羽子田1号墳出土の牛形埴輪は、ほぼ全身がわかり、造形的にも優れている埴輪として国の重要文化財に指定されています。また、6世紀前半の古墳時代に、牛がいたことを示す重要な資料になっています。

40. 鶏形埴輪
（小阪里中1号墳／小阪里中遺跡第1次調査）
頭部のみの破片で、鶏冠（とさか）・喉（のど）・耳朶（みみたぶ）・目・鼻孔が表現されています。

41. 鶏形埴輪
（唐古・鍵10号墳／唐古・鍵遺跡第84次調査）
鶏の尾の部分の破片です。



42. 鳥形埴輪（唐古・鍵遺跡第11次調査）

蓋形埴輪

蓋は、貴人にさしかけられる傘で威儀具として発達しました。埴輪としても重要な位置を占め、古墳時代を通して作られました。円筒の基底部に笠部がつき、その上部中央には立ち飾り部が挿入される小さい円筒状の受け部が作られています。立ち飾りは装飾されたU字形板を直交させたもので、直弧文風の線刻が施されています。また、笠部にも文様化した枠骨が線刻されています。

43. 蓋形埴輪
（唐古・鍵4号墳／唐古・鍵遺跡第72次調査）
立ち飾り部と笠部のセットがわかる良好な資料です。

44. 蓋形埴輪
（唐古・鍵4号墳／唐古・鍵遺跡第72次調査）

45. 蓋形埴輪
（羽子田1号墳／1897年出土）
立ち飾り部は失っています。笠部は脚柔化が進み、装飾性は無くなっています。

46. 蓋形埴輪
（黒田大塚古墳／第2次調査）

47. 蓋形埴輪
（羽子田15号墳／羽子田遺跡第14次調査）

古墳を立て並べられた木の埴輪

古墳からは、土製の埴輪だけでなく、鳥形や笠形、盾形の木製の樹物（たてもの）が立て並べられました。特に低地部の古墳では、周濠内に落ち込んだ木製品がよく残っており、土と木の埴輪で飾られた墳丘のようすがわかるようになってきました。

48. 笠形木製品
（黒田大塚古墳／第1次調査）

黒田大塚古墳の笠形木製品は、墳丘規模に相じて大きく直径46cmの大型品です。

49

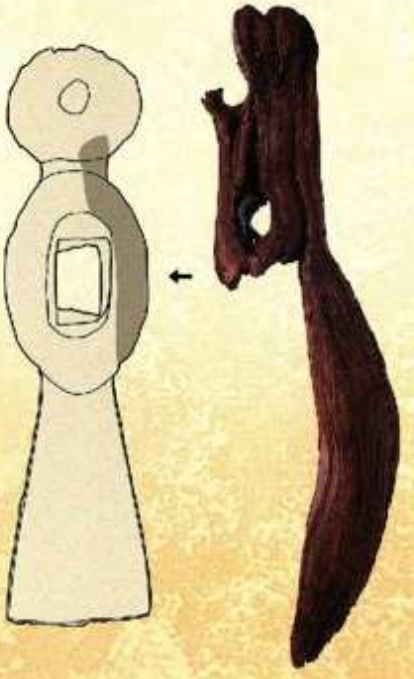
50

49・50. 笠形木製品
（笹鉾山2号墳／笹鉾山古墳群第1次調査）

笹鉾山2号墳から出土した笠形木製品は、直径35cmほどの小型品で、下面の内側を刳り込んでいます。笠の上部は突起の付くもの（49）と、平坦なもの（50）との2種があります。

51. 盾形木製品
（笹鉾山2号墳／笹鉾山古墳群第1次調査）

この盾形木製品は、いわゆる「石見型楯」（20）を木製品に模したもので、左半分が残っています。



52. 鳥形木製品
（底古・健4号墳／第72次調査）

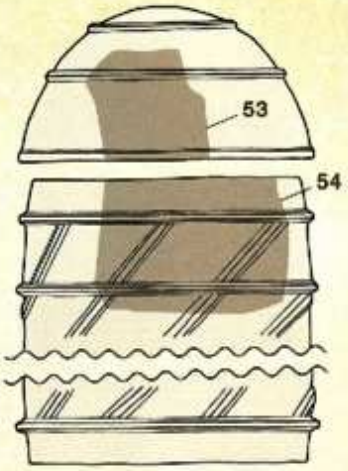
胴部から頸部の破片です。

円筒棺・不明埴輪

埴輪は、古墳に立て並べられるだけでなく、棺や井戸枠として転用されることもありました。特に円筒埴輪は棺として利用することが多いですが、円筒埴輪に似た専用の「円筒棺」も作られました。羽子田遺跡では、2つの地点で確認されています。

53

54



53. 円筒棺蓋、54. 円筒棺（保津・宮古遺跡第26次調査）

羽子田古墳群では、棺専用に作られた円筒棺が出土しています。中世に破壊、廃棄されており棺全体はわかりませんが、直径55cm前後の円筒状の棺2つと半球形の棺蓋が見つかっています。

55. 形象不明の埴輪
（唐古・鍵10号墳／唐古・鍵遺跡第84次調査）

56. 形象不明の埴輪
（唐古・鍵10号墳／唐古・鍵遺跡第84次調査）

57. 形象不明（靫?）の埴輪
（唐古・鍵遺跡第59次調査）

58. 形象不明の埴輪
（小阪里中1号墳／小阪里中遺跡第1次調査）

59. 形象不明の埴輪
（小阪里中1号墳／小阪里中遺跡第1次調査）

60. 形象不明の埴輪
（笹鉾山1号墳／笹鉾山古墳群第2次調査）

埴輪の記号・絵画

埴輪にも、弥生土器と同じように絵画や記号が描かれることがあります。絵画には、船や鹿などが描かれることがありますが少ないです。円筒埴輪には記号が多く描かれ、このような記号は埴輪製作工人を示す記号と考えられています。

61. 記号（⋀）のある円筒埴輪
（小阪里中1号墳／小阪里中遺跡第1次調査）

62. 記号（⋌）のある円筒埴輪
（唐古・鍵4号墳／唐古・鍵遺跡第72次調査）

63. 記号（⊓）のある円筒埴輪
（笹鉾山1号墳／笹鉾山古墳群第3次調査）

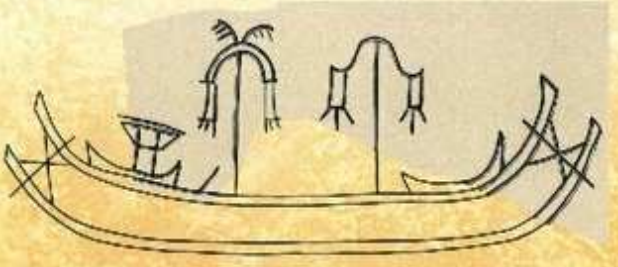
64. 記号（⊗）のある円筒埴輪
（笹鉾山1号墳／笹鉾山古墳群第3次調査）

65

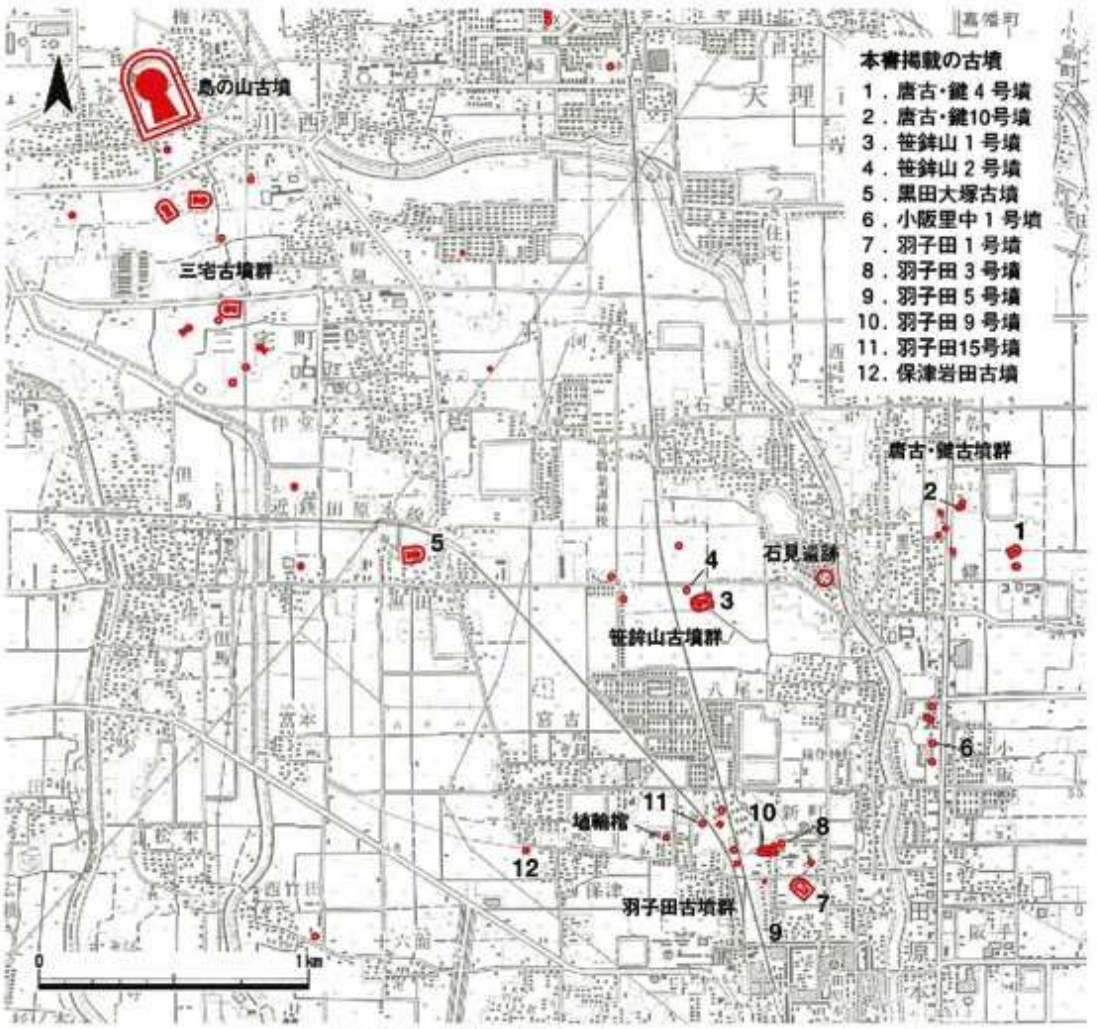
65. 記号（⌒）のある円筒埴輪
（黒田大塚古墳／黒田大塚古墳第4次調査）

66

66. 絵画?のある円筒埴輪
（黒田大塚古墳／黒田大塚古墳第4次調査）



67. 円筒埴輪に描かれた船の絵画（唐古・鍵遺跡）
小林行雄・末永雅雄・藤岡謙二郎「大和唐古弥生式遺跡の研究」1943 第61図
高橋克壽「埴輪の世紀」講談社1996 写真149を修正・トレース



田原本の古墳・埴輪マップ（S=1/25,000）

◎協力機関（原品・写真所蔵者）・個人
奈良県立橿原考古学研究所（42）
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館（34）
河合町教育委員会（3）
小池香津江・千賀久・寺澤 薫・吉村公男

◎写真撮影
亀村俊二・佐藤右文

田原本の遺跡5　田原本の埴輪

発行日　2007年3月30日／編集・発行　田原本町教育委員会　〒636-0325　奈良県磯城郡田原本町926-1　TEL 0744-32-4404